岡山大学医学部保健学科紀要，16：93～94，2006
Bull Fac Health Sci, Okayama Univ Med Sch
（資　料）

国際交流に向けてのスタート

国際交流推進ワーキング・グループ
深井喜代子，勝田稔三，近藤麻理，柴倉美砂子，浅利正二

本学における大学院保健学研究科及び医学部保健学科の目指す目標の一つは，広く一般社会に貢献できる人材を育てることである。そこには高い専門性を有するエキスパートとして，国の内外で活躍できる人材という意味も含まれる。そうした教育理念から，本学部では「国際保健システム論」を大学院には「国際保健学」の講義を全学的に開講しており，国際的な視野で保健学を学ぶ環境を準備している。また，平成11年４月の学科設立当初より，アジアを中心とする留学生の受け入れや共同研究，教育関係者や学生との交流を盛んに行ってきた。ただ，これまでは，単に個人レベルの活動であったり，実際には講義を受講する学生数は多いとはいえないなど，必ずしも良好な成果を挙げてこなかった。そこで，本学科では，2005年11月，国際交流推進ワーキング・グループを立ち上げ，これまでの国際交流活動を今後は学科の組織的な活動として計画的に展開・推進していくことになった。

その新たな国際交流活動の第1弾として，昨年（2005年）12月２日にはAMDA（本部を岡山市におく医療NPO）を通してJICA研修生の受け入れを行った。来学者はザンビアの首都ルサカ市でクリニカル・オフィサーとして地域住民の保健・衛生の仕事に携わっている２名であった。本学の学生との交流において活発な相互の意見交換が行われ，学生たちは，ザンビアという国では住民が主体となる地域での予防活動が重視されているということを知った。我が国と比べれば小国のザンビアでは保健政策への予算も小額ではあるが，「自分自身で健康を守る」ために地域社会の中で住民が主体となって保健や予防活動を行っているという事実は，本学の学生にとっては少なからぬ刺激となった。自分たちが「病気になったら病院に行けばいい」という受け身的な考えを無意識に持つようになっていることに，彼らとの交流によって気づかされたのである。若い学生たちは臆することなく，知っている限りの英語を駆使してよいコミュニケーションをとっていた。

ワーキング・グループの活動の第２弾として，12月５日に，タイのスリマハサラカム看護大学（Srimahasarakham Nursing College, SNC）より学長と２名の教員（いずれも看護学者）が本学を訪問し，学生や教員との交流を深めた。彼らは附属病院の見学，岡山大学と保健学科の教育システムについての説明会，看護学専攻学生６名との交流会，そして夕食会を兼ねた懇親会のスケジュールを半日でこなした。交流の中で，タイでは看護師の教育はすべて４年制大学で行われていること，そして看護師の免許更新制度が近年取り入れられたことなど，同国の先進的な看護事情を知ることができた。実は，今回のタイからの教員の招聘に関しては，兼ねてからタイの病院や医療系学校との交流を継続している岡山済生会総合病院の協力と，岡山済生会看護専門学校長でもある浜家一雄済生会病院理事のお力添えがあった。本学科としては，今後は同校との共同で学生や教員の，タイを初めとするアジアの国々との国際交流を継続していく考えである。2006年３月初旬には，本学の有志学生と教員が岡山済生会看護専門学校の学生と連れだって親善大使としてタイのSNCなどを訪問することを決定した。異国の現状を訪問体験するによって学生たちの中で国際人としての行動力や見識を高めてくれることが大いに期待される。

さらに，タイ国との縁は続き，２月９日～12日にメンバー２名（近藤麻理助教授と勝田稔三助教授）が㈶国際医療技術交流財団（JIMTEF）より国立マヒドン大学での医療従事者養成のためのシンポジウムに派遣された。JIMTEFは従来，海外の医療従事者の長期日本滞在によって新しい技術の習得のための研修を提供してきた。しかし，将来的にはタイ国などが中心となってアジアの国々の医療従事者を養成できることが望ましい援助のかたちと考えられるようになった。そのために，このシンポジウムではアジアと日本の強力な連携のもと，国際的な医療

岡山大学医学部保健学科

従事者を育成するための具体的な試案を考えることを目的としている。この試みを保健学科も積極的に支援していくことを検討している。

国際交流を推進することの意義は，我が国の保健医療システムを世界のスタンダードに照らし合わせ国際的な医療人を育成するために何が必要なのか，そして，保健・医療・福祉の国際化時代にあって保健学科の使命は何なのかを，正面から考える機会をもつことである。これまでの活動を通して見知った，海外の人々と親しく交流する本学科学生たちの生き生きとした姿は私たち教員の嬉しい発見でもあった。世界を照準に合わせた医療人の教育を，この岡山大学の中でスタートさせる時期は，まさに今であるといえよう。今後は本学の国際的な教育環境の整備（英語での授業など）をはかるとともに，海外の保健学系大学との単位交換制度の導入の検討，アジア諸国の医療従事者の養成支援などを活動の目標としたい。

写真 1　ザンビアからの研修生と共に

写真 2　アジアからの留学生と交流

写真 3　タイの看護学教員と懇談